

# 第40回 日本免疫学会学術集会 テクニカルセミナー10

## 樹状細胞サブセット機能と その制御機構

日時 2011年11月29日(火) 12:00-13:00

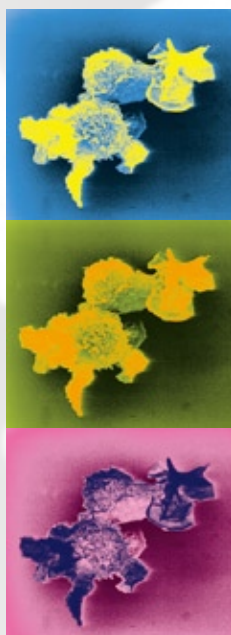
会場 K会場 303

座長 **三宅 健介先生**

東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 感染遺伝学分野

演者 **改正 恒康先生**

大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫機能統御学



樹状細胞は、Toll 様受容体 (TLR)、RIG-I 様受容体 (RLR) を介して外来微生物の種々の成分 (免疫アジュバント) を認識し、炎症性サイトカイン、I 型インターフェロン (IFN) などを産生することにより、自然免疫ばかりでなく、T 細胞の分化方向を決定することにより、獲得免疫にも関与する。樹状細胞は、種々のサブセットから成る不均一な細胞集団であり、サブセット特有の機能的特性を示す。形質細胞様樹状細胞 (plasmacytoid DC, pDC) と呼ばれる樹状細胞サブセットは、TLR7, TLR9 を選択的に発現しており、このシグナルにより大量の I 型 IFN、特に IFN- $\alpha$  を産生する特性を持つ。また、マウスにおける CD8 陽性通常樹状細胞 (CD8 陽性 cDC) は、2 本鎖 RNA を認識する TLR3 を発現しており、その刺激で細胞障害性 T 細胞反応を増強 (クロスプレゼンテーション) する特性を持つ。この樹状細胞は死細胞を取り込む活性も強く、これらの特性を通じて、腫瘍免疫やウイルス免疫に重要な役割を担っている。これらの樹状細胞サブセット機能は、ヒトでもよく保存されており、マウスにおける知見は、臨床においても有用な知見になると考えられる。我々は、遺伝子欠損マウスを用いて、これらの樹状細胞機能を制御する分子機構を明らかにしてきた。

本セミナーでは、樹状細胞サブセット機能とその制御機構について、我々の最近の知見を概説したい。

共催：第40回日本免疫学会学術集会  
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社



Helping all people  
live healthy lives